

- の・くらし (6) 各種会議の開催  
 ~学び合い、考えを広げ深める子ども~ ア 評議員会：年2回（6月，2月）  
 (4) 学習指導改善調査研究事業 イ 理事会：年10回（10月と2月を除き毎月1回）  
 7月実施（4年生以上の国語，算数） ウ 研究部会：必要に応じて随時  
 (5) 刊行物の発行及び助成 エ 研究集録編集委員会：年6回  
 ア 指定研究会の「研究紀要」刊行 オ 研究推進委員会：年7回（予定）  
 イ 機関誌「研究集録 No.44」刊行  
 ウ 各郡市小教研の「研究紀要」等刊行助成

コ ラ ム



学びのナビゲーション

小千谷市立小千谷小学校 山田 裕信

自然体験教室で，ウォークラリーを楽しんだことがある。

子どもたちは一人一人が冒険家となって，必要な地点を通過するルートをグループの仲間と相談し合い，選択し，わくわくしながら目的に向かって未知の山野をかけまわっていた。

この活動で，子どもたちに与えられたのは1枚の地図である。スタートとゴール，複数の道筋，池や樹木，危険な箇所等，必要な情報が見取れるように分かりやすく描かれている。また，近道ができる橋，周りを見渡して位置を確認できる見晴台，休憩できる東屋など，ラリーに活用できるアイテムも明示されている。

ところで，私たちの授業ではどうだろうか。

未知の学びのフィールドに挑戦していく子どもたちに，ウォークラリーの地図のように，「学びの目的・目標や内容」「学びの過程」「ここで活用する知識・経験等の学んだ力」などが見えるようにした，いわば「学習鳥瞰図」のようなものを明示してきただろうか。教師が，「指導計画」を指導案の中だけに閉じこめておくのではなく，「学びのナビゲーション」として，子どもや保護者に明示するようになると，授業の在り方も変わってくるのではないだろうか。

私の学校では，現在，単元レベルの「学習ナビ教材」の開発に，職員が積極的な論議と実践を積み重ねている。子どもが自らの学びを見通し，思考力・表現力，活用力を働かせる中で，学びの楽しみを実感する「分かる授業」づくりに生かしたい。